

新潟市総合計画 素案

令和5－12年度
(2023－2030)

おことわり

- 計画に使われている用語については、別添「用語解説集」に整理しましたので、そちらもご覧ください。
- 本冊子に掲載している図や写真は、素案の内容について理解を深めていただけるよう、イメージをつかんでいただくための参考画像として掲載しているものです。
- グラフ等の数値については、本冊子作成時点の数値を掲載していますが、成案の際に最新の値に更新します。

総合計画の構成・期間	1
------------	---

I 基本構想

1 策定趣旨	5
2 まちづくりの理念	6
3 目指す都市像	7

II 基本計画

1 総論

(1) 人口ビジョン	
① 人口の現状分析	13
② 人口の将来展望	24
(2) 将来想定される変化・課題を 見据えた政策展開	27
(3) 土地利用方針	29

2 新潟市を取り巻く状況

(1) 新潟市のあゆみ	33
(2) 時代の潮流	
① 世界が共通して取り組むSDGs (持続可能な開発目標)	38
② 地球規模の環境問題と 脱炭素社会に向けた動き	40
③ 自然災害に対する 防災意識の高まり	42
④ 新型コロナウイルス感染症による 社会の変化	44
⑤ デジタル化の急速な進展	46
⑥ 大きな岐路に立つ グローバル経済と国際社会	47
⑦ 多様性を認め合い共に生きる 社会への意識の高まり	48

3 新潟市の強み

(1) 新潟市の強み	
① 都市と田園の調和により もたらされる暮らしやすさ	51
② 国内外と結ばれた高い拠点性	53
③ 全国トップクラスの農業力	54
④ 世界に誇る豊かな食	56
⑤ 充実した地域の力	58
⑥ 個性豊かな地域に根差した 歴史・文化・スポーツ	59
⑦ 新しい時代を支える優れた 人材輩出力	61

4 政策・施策の全体像

(1) 政策・施策の全体像	
① 基本計画の構成	65
② 成果指標の設定	66
③ 総合指標	67
④ 政策・施策を推進する5つの視点	68

5 重点戦略

(1) 重点戦略について	71
(2) 重点戦略	73
(3) 地方版総合戦略との関係	97

6 各分野の政策・施策

(1) 政策・施策の体系	99
(2) 各分野の政策・施策	
分野1 市民活躍	106
分野2 文化・スポーツ	114
分野3 子育て・教育	124
分野4 健康・福祉	136
分野5 産業・交流	146
分野6 安心・安全	170
分野7 まちづくり・インフラ	180
分野8 環境	192
(3) 持続可能な行財政運営	200

7 区におけるまちづくりの方向性

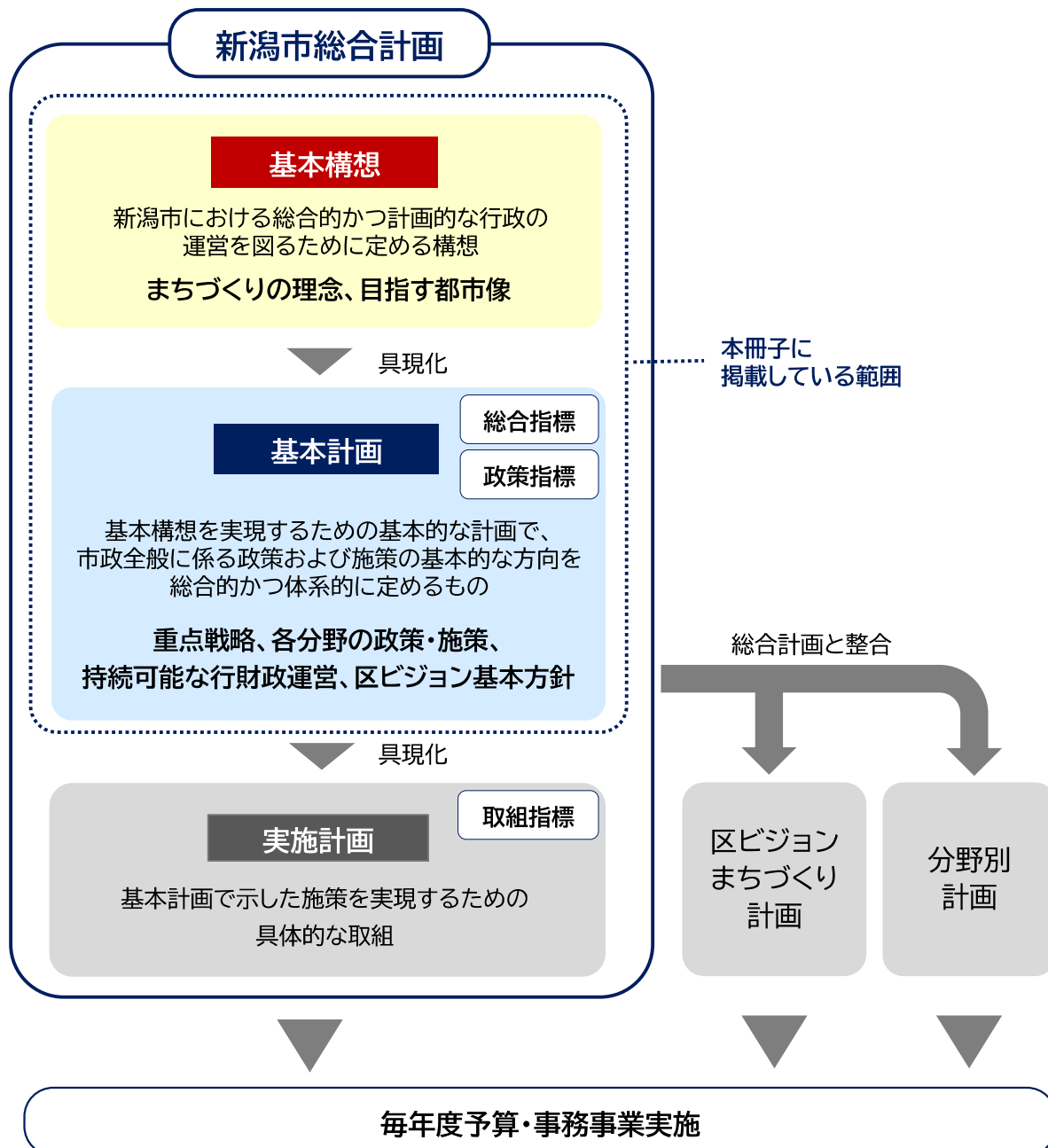
(1) 区におけるまちづくりの方向性	220
(2) 区ビジョン基本方針	
北区	224
東区	228
中央区	232
江南区	236
秋葉区	240
南区	244
西区	248
西蒲区	252

附属資料

(1) 政策・施策と関連する主なSDGs	
ゴール	257
(2) 成果指標(総合指標・政策指標)	
一覧表	259

総合計画の構成

- 新潟市総合計画は、新潟市が目指す姿(都市像)の実現に向けたまちづくりの方向性を示す計画であり、新潟市における最上位の計画に位置付けられます。
- 総合計画は、基本構想・基本計画・実施計画の3層で構成されています。
そのうち、基本計画・実施計画に、政策・施策の進捗を測るための成果指標(総合指標・政策指標・取組指標)を設定します。
- 本冊子では、総合計画のうち、基本構想・基本計画について記載しています。



総合計画の期間

○基本構想・基本計画は、令和5(2023)年度から令和12(2030)年度までの8年間における新潟市の目指す都市像を示す計画とし、その実現に向けた政策・施策について掲載しています。

なお、社会環境の変化や新たな課題に対応するため、計画期間の間である令和8(2026)年度に必要な見直しを行う予定です。

○実施計画は、社会環境の変化に機敏に対応するため、4年ごとに策定し進捗管理を行います。

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
基本構想	令和12(2030)年度における新潟市の目指す都市像を示します							
基本計画	令和12(2030)年度までの8年間を計画期間とします							
実施計画	令和8(2026)年度までの4年間を計画期間とします				中間見直しを踏まえて策定します			
	実施計画に基づき、緊急性や財政状況を踏まえながら毎年度の予算編成を行います。							

中間見直し予定

総合計画策定にあたっての考え方

○現在世代だけでなく将来世代まで心豊かに暮らし続けられる新潟市を築くため、総合計画とSDGs(持続可能な開発目標)を一体的に推進し、基本構想の実現を図るとともにSDGsの達成に貢献します。

○成果指標を設定し、基本構想の実現に向けた政策・施策の進捗管理を行います。
成果指標により政策・施策の進捗状況を可視化することで、多様な主体との一層の連携・協働や政策立案プロセスの強化を図ります。

○人口減少・少子高齢化の進行に的確に対応するため、計画期間よりもさらに一步先の将来(2040年頃)にかけて想定される変化・課題を見据えて、現時点から取り組むべき政策・施策の方向性を示します。

各分野の政策・施策を推進することにより、基本構想の実現を図るとともにSDGsの達成に貢献

市民や民間事業者など多様な主体との連携・協働のもとに推進(パートナーシップで目標を達成)



新潟市が目指す都市像の実現(基本構想の実現)

同時に目指す

SDGsの達成に貢献



I 基本構想

1 策定趣旨

新潟市は、平成19(2007)年4月に本州日本海側で唯一の政令指定都市として新たなスタートを切って以降、8つの行政区において、地域の特性を活かした個性あふれるまちづくりを進めてきました。

平成27(2015)年度からは、急激な人口減少・少子高齢化を重要課題と捉え、安心して健康な暮らしとまちの発展の実現に向け、「にいがた未来ビジョン」によるまちづくりを推進してきました。

一方、国立社会保障・人口問題研究所による日本の将来人口推計では、人口減少・少子高齢化の傾向が続いていくことが予測されており、国の傾向と同様、新潟市においても、本格的な人口減少局面を迎えています。

また、近年地球規模で拡大する気候変動により、各地で激甚化・頻発化している豪雨災害などを踏まえ、防災・減災対策や脱炭素社会への変革など地球温暖化への対応も急務となっています。

加えて、南海トラフ地震や首都直下地震といった、首都圏を含めた太平洋側における大規模な震災への備えについても切迫性を増しています。

世界を見渡せば、気候変動のほか、食料危機や貧困、人種やジェンダーに起因する差別など、様々な問題・課題に直面しています。このような時代において、誰一人取り残さないという理念のもと、持続可能なよりよい未来を目指すために、平成27(2015)年の「国連持続可能な開発サミット」で採択された令和12(2030)年までの世界共通の目標が「SDGs(持続可能な開発目標)」です。

今、わたしたち一人一人が、こうした問題・課題を「自分ごと」として考え、行動することが求められています。

時代潮流が目まぐるしく変化する中、新潟市で暮らすわたしたちが力を合わせ、一人一人が明るい夢や希望を持てるような活力あふれるまちを築くとともに、このまちを豊かな状態で将来世代に引き継いでいかなければなりません。

新潟市が目指す都市の姿や、その実現に向けたまちづくりの方向性をわたしたちが共有し、互いに連携・協働しながら取り組んでいけるよう、新潟市総合計画を策定します。

2 まちづくりの理念

みんなで新潟市の強みを活かし、人口減少時代に躍進する、

『活力あふれるまちづくり』、『持続可能なまちづくり』

を進めます

新潟市の現状・時代の潮流

新潟市は、人流・物流拠点としての機能を有する本州日本海側最大の都市部と、多彩な水辺・里山といった自然豊かな田園地域が、互いの良さを活かし合いながら共存しています。こうした「都市と田園の調和」というまちの特性は、暮らしやすさをはじめ、様々な場面において新潟市の大きな強みとなっています。

一方、全国的な人口減少や、近年各地で激甚化・頻発化する自然災害、変化する国際情勢など、わたしたちの暮らしを取り巻く社会環境は、そのかたちを変え続けています。

また、新型コロナウイルス感染症の流行は、急速なデジタル化の進展など、人々の意識や行動、暮らし方に大きな変化をもたらし、若い世代を中心とした地方移住への関心の高まりなど、「東京一極集中」の傾向にも変化の兆しが見られています。

これからのまちづくり

こうした時代潮流を背景に、これからのまちづくりにおいては、これまで以上に心の豊かさに価値が置かれる「成熟した社会」へと発展させていく重要性が高まっています。

心の豊かさを測るものさしは、一人一人の価値観によって異なるものですが、心豊かな暮らしには、明るい未来が展望できる、将来への安心感が不可欠です。だからこそ、活力あふれる新潟市を築き、それを将来にわたって持続させていかなければなりません。

そのためには、SDGsの考え方を踏まえ、新潟市においても、「経済」、「社会」、「環境」の三側面の調和を図りつつ、それぞれの側面の豊かさを高めることが重要です。三側面の豊かな調和が図られることで、暮らしやすいまち、訪れたいまち、ビジネスを展開したいまちとして、様々な分野・場面で国内外から選ばれる『活力あふれるまちづくり』、そして、豊かな調和を未来へつなぐ『持続可能なまちづくり』を進めていきます。

人口減少時代において、『活力あふれるまちづくり』と『持続可能なまちづくり』を重ね合わせて推進するためには、市民、民間事業者など、新潟市に関係する様々な人や団体とのパートナーシップにより、新潟市の強みを最大限に活かしながら、総力を挙げて取り組む必要があります。

このまちづくりの理念のもと、将来にわたって、新潟市ならではの「心豊かな暮らし」ができるまちの実現を目指し、将来世代へ引き継いでいきます。

3 目指す都市像

まちづくりの理念に基づき、新潟市が令和12(2030)年に目指す都市像を示します。

● 都市像

『**田園の恵みを感じながら 心豊かに暮らせる 日本海拠点都市**』



「**経済**」、「**社会**」、「**環境**」の三側面の豊かさを調和し高めることで、「**活力あふれるまちづくり**」、「**持続可能なまちづくり**」を推進し、都市像の実現につなげます。

三側面の豊かさが高まることで実現されるまちの姿や市民の暮らしのイメージ

◎ 豊かな経済 ～新潟市の強みを伸ばし、活かし、挑戦する～

- ◆ 全国・世界とつながる日本海拠点都市として人・モノ・情報が行き交い、地域経済に活力があふれています
- ◆ 地域の外から多様な人材や投資を呼び込み、地域内で経済が循環しています
- ◆ 食や農など新潟市の強みを活かした革新的ビジネスが生まれ、若者にとって魅力的な就業の機会が創出されています



◎ 豊かな社会 ～共につながり、安心を広げる～

- ◆ ワーク・ライフ・バランスが保たれ、子育てと仕事を両立できています
- ◆ 家庭や地域、多くの人々に見守られながら、子どもたちが笑顔いっぱい成長しています
- ◆ 人権や多様性を尊重し、互いに支え合いながら、安心して暮らしています
- ◆ 文化芸術・スポーツが盛んで、心身ともに充実した生活を送っています
- ◆ 広大な田園環境と日本海に育まれた、四季折々の豊かな食や歴史を楽しんでいます
- ◆ 各地域の拠点や日常生活の拠点がつながり、移動や交流がしやすく、便利で質の高い生活を送っています
- ◆ 都市全体・地域全体で防災・減災力を高め、激甚化・頻発化する自然災害に備えられています



◎ 豊かな環境 ～守り、育み、未来へつなぐ～

- ◆ ゼロカーボンシティ、循環型社会に向けたまちづくりが進み、自然環境と調和し共存しています
- ◆ 田園・里山や、日本海・大河・潟といった多彩で豊かな自然を身近に感じ、四季を満喫しています
- ◆ まちなかにも花や緑があふれ、きれいな水や空気に包まれながら、潤いのある生活を送っています



